

活動
理念

「より良い人生を送りたいという願いを実現するために私たち支援員は働きます」

■ PROFILE

事業類型:施設入所支援・グループホーム・生活介護事業
理事長／多田美穂子 施設長／内野浩二
農業経営担当／内野美佐 従業員／パート含め80名程度
利用者／100名(菜花関連で10名程度)

■ 事業概要

- ・施設入所支援・生活介護・短期入所事業・相談支援事業
- ・グループホーム みんなにやさしい畑
- ・就労体験館うどん屋“どんちゃん”
- ・市内選果作業等 自社農場の整備を計画中

■ 農福連携をはじめたきっかけ

高秀牧場へ障害者雇用の相談から、菜花生産へ。

■ 沿革(画期区分)

平成13年(2001) ピア宮敷開所
平成17年(2005) ピア宮敷第1分場 開所
平成19年(2007) ケアホーム「椎木の家」運営開始
平成21年(2009) ピア宮敷第1作業棟完成
就労体験館「うどん屋どんちゃん」開業
平成23年(2011) 夷隅郡市福祉作業所 生活介護事業へ移行
平成24年(2012) ケアホーム「くわた壱番館」運営開始
平成26年(2014) ピア宮敷第1分場→ピア宮敷第1工房へ名称変更し、生活介護事業所へ移行
ピア宮敷 障害者支援施設へ移行
地域移行を進めるケアホーム「くわた壱番館」運営開始
障害者総合支援法施行により、「ケアホーム」が“グループホーム”へ名称変更
平成28年(2016) 相談支援事業(指定特定相談及び指定障害児相談)を開始
高秀牧場へ障害者雇用の相談、そのご縁で菜花生産を試験的に開始
令和元年(2019) 高秀さんより「菜花を任せる」と言われ、本格的に農業活動を開始「みんなにやさしい畑」

■ みんなにやさしい畑のマッチングストーリー

内野美佐氏はピア宮敷の農業経営担当かつ千葉県農福連携サポーター。母・多田美穂子氏が理事長、多くの実績を持つ起業家でもある。福岡出身、知人より「いすみで福祉法人をやりたい」と相談を受け、結果的には自らが福祉事業所を開設することに。施設長はご主人の内野浩二氏、事務能力が高く、法人として動きやすいよう配置など指示。

美佐氏が福祉事業に関わったのは4年前、それまでは日中は地域活動(商工会青年部・PTA等)、夜はクレイアート作家として活躍していた。そのような経緯とピア宮敷の活動を通じ、いすみ市の地方創生・移住促進事業等で基礎自治体、商工会からNPO地場研究所など、多くの出会いがもたらされた。

「みんなにやさしい畑」のきっかけは、高秀牧場へ障害者雇用の相談から一度途絶えた菜花生産をやってみたら?と提案を受けた。現在は、齢70代の熟練農業者「菜花ガールズ」や



農業指導員の助けにより、出荷量向上やパウダーなどの付加価値創造も図っている。

常に、3つの目線:農業経営・福祉支援員・農家(農業技術・畑の目線)を心がけている。体験・研修による事業スキームを着々と展開し、海外からスポーツやITのグローバル企業、大学(首都圏・県内等)などからの相談や受け入れも行っている。

■ みんなにやさしい畑のマッチングポイント

1 マッチングの形態

施設支援員が利用者一人一人の特性や強みを活かすように意識している。できるできないを決めつけず、まずはやってみようか?との声かけで、利用者の新たな可能性が見えることが多々ある。

2 その発展過程

職員、まずは農作業マニュアルを作成し共有。さらに職員が利用者用に分解し作業をマッチング。時間・売上・作業効率を念頭に、緊張感ある作業への挑戦により利用者の成長が見られた。

3 行政による財政的・人的支援

農業改良普及員の指導を受けた。補助金はなし。

4 農業関係団体・福祉関係団体との連携形態

農協から価格変動動向などの情報提供等。農業普及員は、何度も畑に足を運びアドバイスくれた。菜花は勝浦の事業所へお声がけし、ともに作業している。その他、梨農家との連携は援農スタイル、他の事業所にも声をかけマッチングしている。



5 マッチングの対象

(農福連携サポーターの活動として)

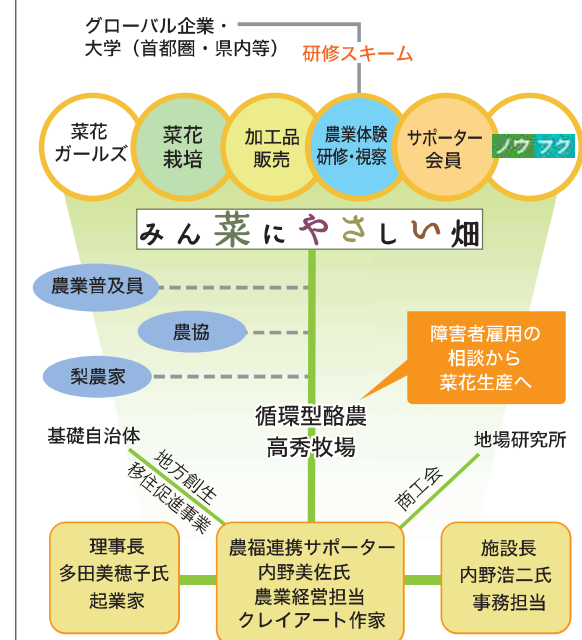
地域:いすみ市、勝浦市、御宿町、大多喜町

品目:自社は菜花 農福サポーターとしては梨
障がい区分:福祉事業所に通う知的・精神等

6 コーディネーターの育成方法

内野氏の千葉県農福連携サポーター就任をきっかけに、多くの農福セミナーを自ら見つけ受講し、ノウフクネットワークを拡げ、日々学んでいる。ピア宮敷においては、菜花コアメンバー内でミーティングを行い、情報共有・解決策など、何が大切か、売上状況、作業方法、クレーム対応、菜花ガールズとの連携、企業からの視察等、常に話し合っている。

みんなにやさしい畑のネットワークと取り組み



人を育てながら菜花を育てる